



いま、10代留学

2014年1月27日(月)

公益財団法人 AFS日本協会

理事・事務局長 高田祐三

内容

1. 高校生の海外留学
2. 意義とインパクト
3. 受験と留学
4. AFSの歴史と組織
5. 活躍する高校留学経験者
6. 海外留学生の受入れ

【高校生の海外留学】

なぜ高校生なのか？

- 頭が柔軟
⇒高い異文化吸収力
- 将来の道が定まっていない
⇒体験が人生の選択に大きく影響
- 母語がほぼ確立。それをベースに 新しい言語を習得
⇒語彙力、表現力のアップ(語学習得に適した時期)

大学生の留学⇒Academic留学

中学生の留学⇒外国人に？

高校生の留学⇒異文化の理解、母国文化との複合、昇華

交換留学と私費留学

	交換留学	私費留学
目的	海外で地域生活を体験し、異文化理解を深めること	海外の教育システムで、興味のある分野の知識や技術を伸ばすこと
留学先の国・地域	国の希望を出すことはできるが、配属地域や学校、家庭は選べない	選べる
滞在形態	現地の一般家庭にホームステイ(無償)、授業料免除で通学	寮滞在または現地の一般家庭にホームステイ(有償のケースが多い)
期間	1学年間(約10カ月)	選べる
費用	AFS61期(2014年派遣)の場合、プログラム参加費130万円+諸雑費	留学機関により異なるが、寮滞在中で450万円以上、ホームステイで300万円以上、国際航空運賃が別途必要になることが多い

⇒私費留学が「学校に行くこと」を基本としているのに対して、交換留学では「現地の10代の生活を体験すること」を基本としている

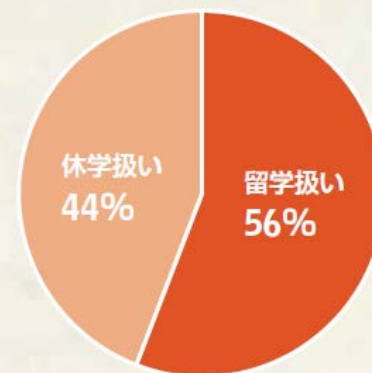
高校における留学の取扱い

留学扱い	外国の高校での履修を認定してもらい、遅れずに進級(卒業)する
休学扱い	帰国後、出発時の学年(1年下のクラス)に入る

留学扱いの場合の単位認定

学校教育法施行規則第93条第2項
『校長は、留学することを許可された生徒について、外国の高等学校における履修を高等学校における履修とみなし、36単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる』

留学扱い・休学扱いのどちらで留学した?



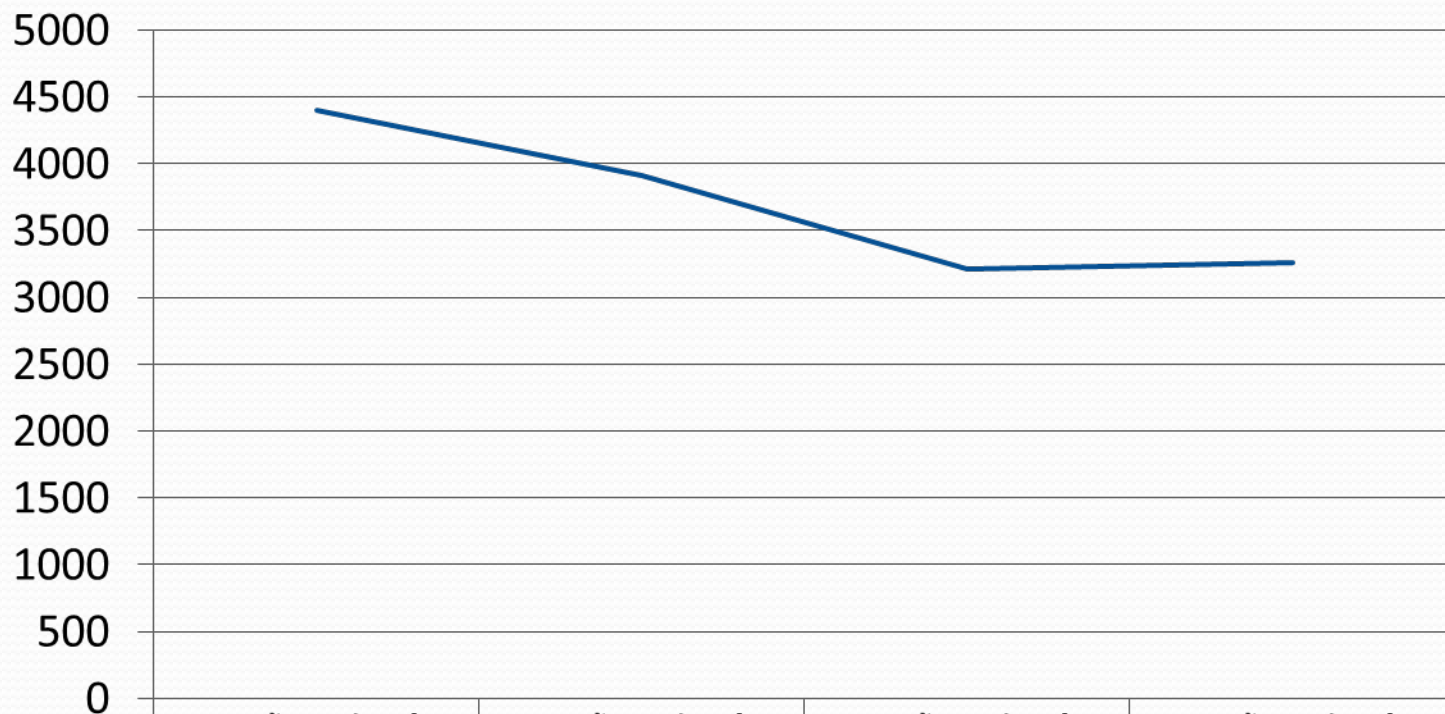
AFS55-57期生へのアンケート

留学できる国

インド	インドネシア	タイ	中国	香港	フィリピン
マレーシア	オーストラリア	ニュージーランド	アイスランド	イタリア	オーストリア
オランダ(仏語、蘭語)	スイス(独語、仏語、伊語)	スウェーデン	スペイン	チェコ	デンマーク
ドイツ	ノルウェー	ハンガリー	フィンランド	フランス	ベルギー
ポルトガル	ロシア	アルゼンチン	エクアドル	コスタリカ	チリ
パナマ	パラグアイ	ブラジル	ボリビア	ホンジュラス	メキシコ
アメリカ	カナダ				

AFS年間派遣プログラムの場合

留學生徒数の推移



	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成23年度
留學生徒数（人）	4404	3913	3208	3257

3ヵ月以上の留学生と数。文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況について」

【意義とインパクト】

高校時代の海外留学のインパクトに関して、

2005年にAFS国際本部の主催で国際教育交流の
権威である米国のハマー教授 (Mitchell R. Hammer,
Ph.D) との協働で、次の調査研究が実施された

調査研究の概要

▼対象

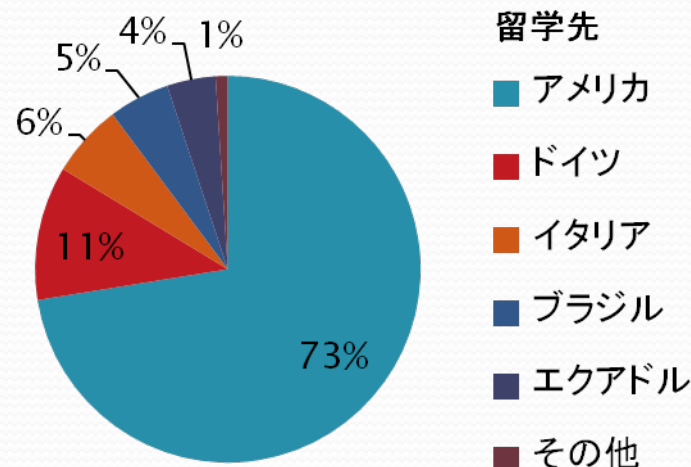
- ・AFS年間留学生 1500人
- ・留学生の友人 600人
オーストリア、ブラジル、コスタリカ、エクアドル、ドイツ、香港、イタリア、日本、アメリカ

▼調査回数

初回／留学直前 2回目／帰国直後 3回目／帰国6か月後

▼調査方法

アンケート方式



調査結果

- ①「留学経験者」は「留学をしなかった友人グループ」より、平均的に以下の点で長けている
 - 異文化対応能力(intercultural competence)の向上
 - 偏見、自民族中心主義(ethnocentrism)の減少
 - 他の文化への興味の拡大
 - 「私達対彼ら(us vs. them)」の対極観(polarization)の克服
 - 文化の垣根を超えた共通の絆の発見

② 留学経験者にみられた傾向

- 異なる文化を持つ人との接触に違和感・困難を覚えなくなる
- 他の国に関する知識が増える
- 国籍、民族の異なる人と友人になりやすくなる
- 自分自身、自国文化をより深く理解出来るようになった
- 両親を含め、今まで自分が持っていたもの・人に対する感謝の念が持てるようになった

③ 上記傾向は、帰国6カ月後の調査でも持続

- 留学体験が生涯の体験に！

④留学生は飛躍的に語学力を向上させている

- 留学生の47%
滞在国の語学を流暢(fluent)に話せるように
- 留学生の12%
滞在国の語学を母国語と同じレベルで話せるように
- 英語以外の外国語の習得が容易になった

⑤ハマー教授の結論

- 高校時代の外国留学は、青少年の中に異文化間の架け橋を築く役割として極めて重要
- 帰国生は、文化の垣根を越えてその後の人生を進んでいく能力を身に付ける

異文化理解と英語の関係

- 英語学習は異文化理解と並行して行われるべき
- 英語を習得するには、まずは日本語理解から

“いい通訳は、どれくらい日本語ができるかにかかっている” ---鳥飼玖美子氏

- 国際語としての英語(伝える中身が大事)、異文化コミュニケーションを学ぶことが重要
- 自国を十分知ったうえで外国の文化に接したときに、話すべき言葉、話したい内容が自然と生まれてくる。それが語学の上達につながる

“There may be people who can see the world through only one window. However, I now have individuality within two cultures. When I go back to Japan, perhaps, I will feel uncomfortable toward my culture and feel culture shock. However, I think that this is the process of combining two cultures. And when two are united, and a new individuality is formed, is it not so that I can see and understand the world not from one window but from many standpoints ?”

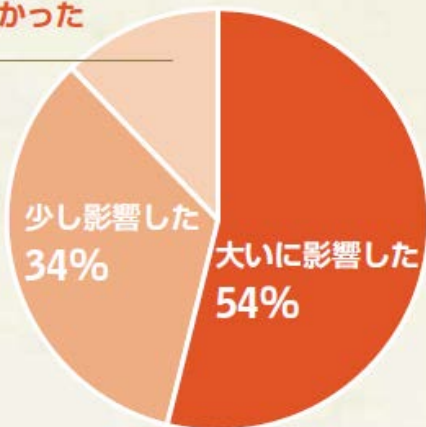
(ある日本からのAFS留学生の留学中の体験記より)

【受験と留学】

進路決定・進学までの期間

留学したことが進路決定に影響した？

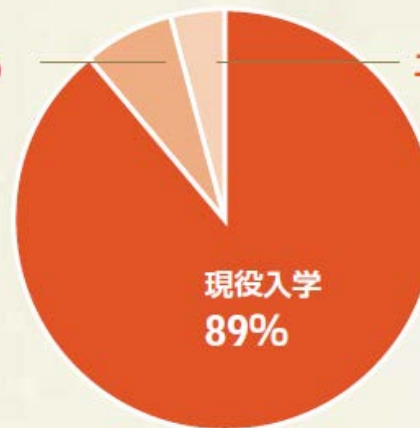
影響はなかった
12%



進学（4年制大学・短大・専門学校）までの期間は？

一浪 7%

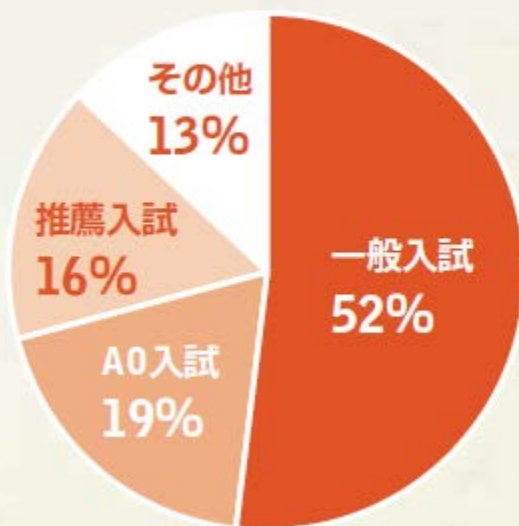
二浪・その他 4%



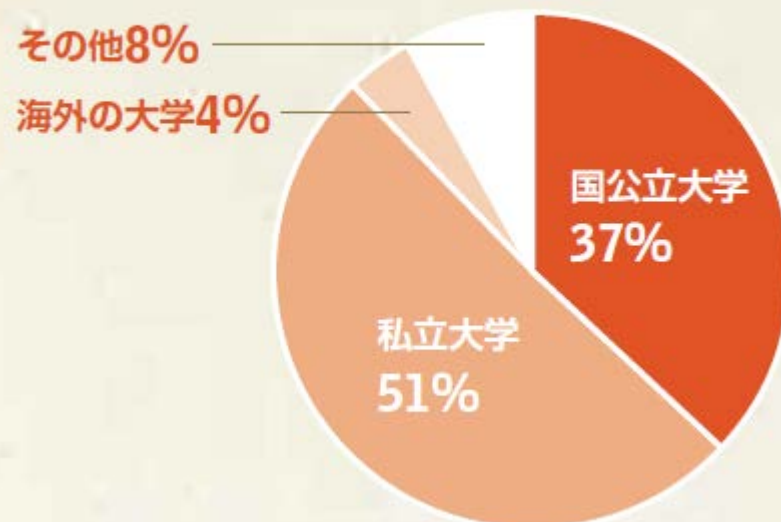
AFS55-57期生へのアンケート

入試方法・進学先

入試方法は？

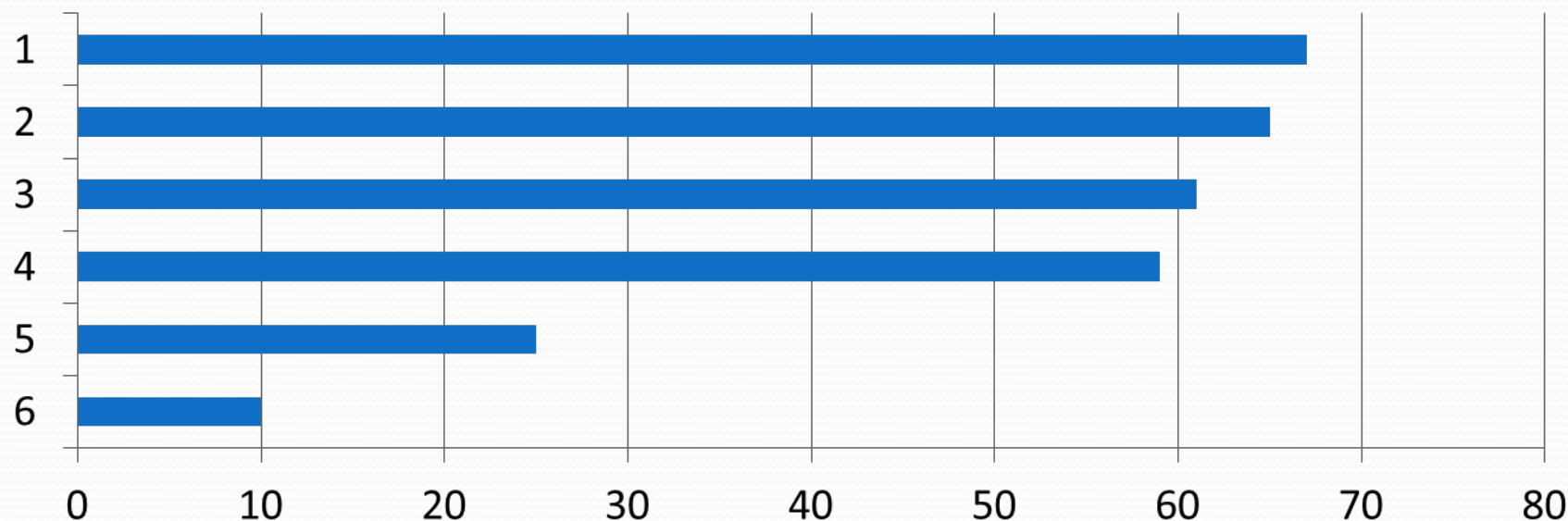


進学先



AFS55-57期生へのアンケート

大学入試に役立ったこと



1. 広い視野・グローバルな視点で物事を考えられるようになった
2. 語学力がついた
3. 人に語れる内容ができてアピールできるようになった
4. 自信が付き、積極的になった
5. 問題解決能力がついた
6. 集中力がついた

AFS55-57期生へのアンケート

【AFSの歴史と組織】

AFSとは

- 世界50以上の国・地域にネットワークを持つ、非営利の国際教育交流団体（活動は世界100か国以上）
- 高校生を中心に毎年約13,000人の交流の機会を世界で提供
- 活動を支えるのは世界4万人以上の学生・社会人ボランティア。受入家庭や学校もすべて無償で協力を行っている（関係者全員が異文化理解体験の「参加者」）



AFSの歴史

- 第1次世界大戦勃発時、パリにいたアメリカの青年たちが、戦場から後方の病院へ傷病兵を輸送。第2次世界大戦でも活動を継続し、4,200人を越えるボランティアが120万人以上の傷病兵の救助に尽力した

American Field Service（米国野戦奉仕団）が起源

（2014年が100周年）

- 2回の大戦を経験したボランティアたちは、相互理解の大切さを痛感し、戦争を起こさないための仕組みとして、若者の留学制度を開始した



AFSの誕生

- 戦争が始まってから傷病兵を救護するのではなく、戦争が起こらない平和な世の中をつくるために設立

REACTIVE → PROACTIVE

- 対象に高校生を選択
⇒ 異文化理解教育に最も適した時期

- 1947年／10カ国から52人の高校生がアメリカに渡る
(敗戦国ドイツも含まれる)
- 1971年／アメリカ以外の国々と交換留学制度が
スタート(マルチナショナル・プログラム)
- 1989年／若者に対する貢献で、国連からUnited Nations
Testimonyを授与される。

2014年現在、加盟国は約50カ国、交流国は100カ国以上に。
これまでに全世界で40万人以上が
プログラムに参加



日本のAFS

- 1954年／日本の高校生8名(1期生)がアメリカに渡る
- 1957年／アメリカの高校生9名を日本に受け入れる
- 1980年／財団法人エイ・エフ・エス日本協会設立
- 2004年／文部科学省より「国際交流功労者文部科学省大臣表彰」を受ける
- 2011年／公益財団法人に移行

全国で74支部・約4300名(登録数)のボランティアが活動
2014年現在、日本→海外への派遣は毎年約500名、
累計で18,000人以上。海外→日本への受け入れは
毎年約400名、累計で約15,000人以上。

日本のAFS

【2012年実績】

	派遣	受入	合計
国	37カ国	50カ国	
長期	375	289	664
短期	107	770	877
合計	482	1,059	1,541

AFS留学の選考試験

交換留学生として適性があるかどうかを確認するために選考試験を実施。応募には学校長の推薦書が必要。

【種類と時期】

- 一般選考A日程(6月)
- 一般選考B日程(7月)
- 一般選考C日程(10月)
- 指定校推薦(4月～9月)
- 追加募集(10月～)

【内容】

- 筆記:英語
- 筆記:一般教養(一般選考のみ)
- 個人面接

【活躍する高校留学経験者】

- 鳥飼玖美子(立教大学教授、元同時通訳)
 - 長井鞠子(サイマル・インターナショナル専属会議通訳)
 - 安藝清(英会話イーオン社長)
 - 佐藤良明(アメリカ文学者、NHK教育「リトルチャロ」初代監修)
 - 川口順子(元外務大臣)
 - 榊原英資(青山学院大学教授、元財務官「Mr. Yen」)
 - 塩崎恭久(衆議院議員、元官房長官)
 - 小野文恵(NHKアナウンサー)
 - 竹内まりや(歌手)
 - 星野康二(スタジオジブリ代表)
 - ロバート・フェルドマン(モルガン・スタンレーMUFG証券)
 - ダニエル・カール(タレント)
- など他多数

【海外高校生の受入れ】

地域社会に留学生を受入れる

- 地域の人々みんなが異文化体験ができる
(地域の国際化)
- 外から見た日本を知ることができる。
- 海外が身近になり、視野が広がる。



ホストファミリーになるには？

ホストファミリーの条件

- 家庭の一員として留学生を受け入れられる
- 食費を含む諸生活費を負担できる
(通学費、医療費、行事参加費はAFSが負担)

AFSのサポート

- 一人ひとりに相談役(LP)
- 受入前オリエンテーション
- 定期的なコンタクトとフォロー



AFS クロエ

検索



**Intercultural
Programs**

米国への高校留学生国別比較

Country Ranking By Number of Students Sent to the U.S. (2004-2012)

	2003-2004	2004-2005	2005-2006	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010	2010-2011	2011-2012
1	Germany 8,483	Germany 6,859	Germany 7,646	Germany 8,030	Germany 8,189	Germany 7,910	Germany 8,172	Germany 7,953	Germany 6,746
2	Japan 1,698	Brazil 2,131	Brazil 2,109	Brazil 2,252	Brazil 2,315	Brazil 2,209	Brazil 1,889	China 2,292	China 2,253
3	Brazil 1,491	South Korea 1,930	South Korea 2,095	South Korea 1,804	South Korea 1,792	South Korea 1,637	China 1,661	Brazil 1,983	Brazil 1,850
4	South Korea 1,406	Japan 1,400	Japan 1,482	Thailand 1,274	Thailand 1,265	China 1,513	South Korea 1,616	South Korea 1,742	South Korea 1,481
5	Thailand 1,042	Thailand 1,035	Thailand 1,246	Japan 1,182	China 1,243	Thailand 1,280	Thailand 1,210	Thailand 1,275	Spain 1,272
6	Vietnam 633	China 659	China 843	China 949	Japan 1,053	Japan 883	Norway 925	Norway 1,051	Thailand 1,248
7	France 630	Italy 626	Italy 754	Italy 882	Italy 845	Norway 862	Italy 892	Italy 996	Italy 996
8	Italy 609	France 581	Norway 627	Norway 754	Norway 806	Italy 812	Spain 866	Spain 993	Norway 1,096
9	Russia 579	Norway 554	France 590	Sweden 626	Sweden 677	Denmark 665	Japan 791	Japan 755	Denmark 864
10	Norway 488	Russia 539	Denmark 540	Denmark 564	Denmark 654	France 625	Denmark 655	Denmark 751	Japan 791
Sub Total	17,059	16,314	17,932	18,317	18,839	18,396	18,677	19,791	18,597
Total	24,290	25,815	27,972	28,268	29,004	27,924	28,142	29,491	27,688

※CSIET statistics を基に作成

2014年派遣プログラム 奨学金のご案内

奨学金申請期間:2013年6月～7月(詳細は選考試験通過者にお知らせします)

AFS年間派遣プログラム第61期では、AFS日本協会の選考試験(P65)を通過し、受入国が内定した方を対象に、奨学金の申請を受け付けます。本冊子では各奨学金の概要についてご案内しますが、申込手続きや必要書類などの詳細は、選考試験通過者にお知らせします。

AFS どさんこ奨学金 (AFS “Dosanko” Scholarship)

趣旨	北海道を愛し応援する個人と企業の支援により設立された奨学金。AFS 年間派遣プログラムを通じて北海道の高校生を海外に派遣することにより、青少年の国際相互理解と国際友好を促進し、未来の北海道と日本を担う人材を育成することを目的とする
対象	AFS 選考試験を一般選考 A または B 日程で受験し (P65)、AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定している、北海道内の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校在学者
募集人数	1 名
支給内容	AFS プログラム参加費の一部として 50 万円を支給。50 万円を超える参加費およびそれ以外の経費(選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など) はすべて個人負担 *派遣強化国 (P62) の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律 20 万円のプログラム参加費支援を行う
応募資格	次のすべての条件を満たしていること ① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること ②学業、人物ともに優秀であること ③国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること ④健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適応できること
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき AFS 日本協会が受給者を決定する
選考結果通知時期	2013 年 9 月予定 (AFS 日本協会より本人宛に通知)
その他	●奨学生の義務 ①留学中・帰国後の計 2 回、留学体験レポートを AFS 日本協会に提出する ②留学体験レポートの提出などを通じて広報活動に参画する ●他奨学金との併願可、併給不可
支給法人・団体	公益財団法人 AFS 日本協会
問い合わせ先	公益財団法人 AFS 日本協会 TEL: 03-6206-1919

みちのく応援奨学金 (“Michinoku” Scholarship)

- A) みちのく応援奨学金
B) ジャパン・ソサエティーみちのく応援奨学金
C) JFAM みちのく応援奨学金

趣旨	東日本大震災と福島原発事故により大きな被害を受けた地域の中・長期的な復興を支援するため、地域と世界をつなぎつつ地域の未来を担う人材を育成することと、被災地の高校生に異文化体験の機会を提供することにより夢を与えることを目的とする
対象	東日本大震災および福島原発事故発生当時に被災地 (※) に居住又は在学していた AFS 年間派遣プログラム第 61 期内定生。AFS 選考試験で一般選考 A または B 日程 (P65) を受験した者に限る ※被災地 青森県・岩手県・宮城県・福島県の全域、および茨城県・千葉県以下の自治体 茨城：水戸市・日立市・土浦市・石岡市・龍ヶ崎市・下妻市・常総市・常陸太田市・高萩市・北茨城市・笠間市・取手市・牛久市・つくば市・ひたちなか市・鹿嶋市・潮来市・常陸大宮市・かすみがうら市・桜川市・神栖市・行方市・銚田市・つくばみらい市・小美玉市・東茨城郡茨城町・東茨城郡大洗町・東茨城郡城里町・那珂郡東海村・久慈郡大子町・稲敷郡阿見町・稲敷郡美浦村・稲敷郡河内町・那珂市・筑西市・稲敷市・北相馬郡利根町 千葉：旭市・香取市・山武市・山武郡九十九里町・千葉市美浜区・習志野市・我孫子市・浦安市 (奨学金設立の 2011 年 5 月 9 日時点で災害救助法が適用されていた自治体)
募集人数	A) 2 名 B) 4 名 (アメリカ派遣限定) C) 1 名
支給内容	AFS プログラム参加費 (130 万円) および 20 万円の留学準備金を支給。それ以外の経費はすべて個人負担 ※留学準備金は、プログラム参加費に含まれない諸雑費 (P64) などに充てる費用
応募資格	次のすべての条件を満たしていること ① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること ②学業、人物ともに優秀であること ③ AFS 日本協会が経済的必要度が高いと判断する者 ④国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること ⑤健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適応できること
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき AFS 日本協会が受給者を決定する

選考結果通知時期	2013年9月予定（AFS 日本協会より本人宛に通知）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学生の義務 <ul style="list-style-type: none"> ① 2013年9月29日（日）の授与式に出席すること（仙台市内にて開催予定。詳細は奨学金合格者に通知） ② 留学中・帰国後の計2回、留学体験レポートをAFS 日本協会に提出する ③ 留学体験レポートの提出などを通じて広報活動に参画する ●一次納入金の支払い 本奨学金申請予定者はプログラム参加費の一次納入金支払い時期（P64）が通常と異なる（詳細は奨学金申請者に通知） ●他奨学金との併願可、併給不可
支給法人・団体	A) 公益財団法人 AFS 日本協会 B) ジャパン・ソサエティー （ニューヨークに本部を置く日米のビジネス、文化等の交流を手がける非営利団体） C) JF アセット・マネジメント（香港に拠点を置く投資会社）有志一同
問い合わせ先	公益財団法人 AFS 日本協会 TEL：03-6206-1919

|(公財)新潟市国際交流協会 高校生留学奨学金

趣旨	次代を担う高校生に、海外で1年間ホームステイをしながら地元の高校に通い、家族やクラスメート、地域の人々との交流を通じて政治、経済、文化、教育など様々な分野で国際相互理解を深めてもらうことを目的とする
対象	保護者が新潟市内に住所を有している、または新潟市内の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校に在学している AFS 年間派遣プログラム第61期内生。AFS 選考試験で一般選考 A または B 日程（P65）を受験した者に限る
募集人数	3名予定
支給内容	AFS プログラム参加費の一部を支給。支給額を超える参加費およびそれ以外の経費（選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など）はすべて個人負担 *派遣強化国（P62）の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律20万円のプログラム参加費支援を行う
応募資格	次のすべての条件を満たしていること ① AFS 年間派遣プログラム第61期の受入国が内定していること ② 国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること ③ 健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適応できること ④ 外国において、中学校以上の教育（日本人学校を含む）を1年以上受けたことがないこと
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき（公財）新潟市国際交流協会が受給者を決定する
選考結果通知時期	2013年秋予定（（公財）新潟市国際交流協会より本人宛に通知）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学生の義務 <ul style="list-style-type: none"> ① 出発前および帰国後に（公財）新潟市国際交流協会を表敬訪問する ② AFS 新潟支部の行事参加などを通じて広報活動に参画する ●他奨学金との併願可、併給可
支給法人・団体	公益財団法人新潟市国際交流協会
問い合わせ先	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学金申請に関するお問い合わせ先 公益財団法人 AFS 日本協会 TEL：03-6206-1919 ●奨学金内容に関するお問い合わせ先 公益財団法人新潟市国際交流協会 TEL：025-225-2727

|(公財)田口福寿会奨学金 (“Taguchi” Scholarship)

趣旨	1985年に田口福寿会の支援により設立された奨学金。岐阜県の青少年を海外に派遣することにより、国際相互理解と友好を促進し、未来の岐阜県と日本を担う人材を育成することを目的とする
対象	AFS 選考試験を一般選考 A・B 日程または指定校推薦で8月末までに受験し（P65-66）、AFS 年間派遣プログラム第61期の受入国が内定している、岐阜県在住（寮滞在は除く）かつ県下の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校在学者
募集人数	10名以内
支給内容	AFS プログラム参加費の一部として50万円を各国出発前に支給。50万円を超える参加費およびそれ以外の経費（選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など）はすべて個人負担 *派遣強化国（P62）の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律20万円のプログラム参加費支援を行う

応募資格	次のすべての条件を満たしていること ① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること ② 学業、人物ともに優秀であること ③ 国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること ④ 健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適応できること
選考方法	奨学金申請者を対象に、岐阜県教育委員会の参画を得て奨学金面接選考を 10 月上旬に実施。AFS の選考結果と奨学金面接選考結果の総合評価に基づき、岐阜県教育委員会が田口福寿会に推薦し、受給者を決定する
選考結果通知時期	2013 年秋予定 (AFS 日本協会より本人宛に通知)
その他	●奨学生の義務 帰国後、留学体験レポートを田口福寿会に提出する ●他奨学金との併願可、併給可
支給法人・団体	公益財団法人田口福寿会
問い合わせ先	公益財団法人 AFS 日本協会 TEL : 03-6206-1919

AFS ひろしま奨学金 (AFS “Hiroshima” Scholarship)

趣旨	広島県を愛し応援する個人と企業の支援により設立された奨学金。AFS 年間派遣プログラムを通じて広島県の高校生を海外に派遣することにより、青少年の国際相互理解と国際友好を促進し、未来の広島県と日本を担う人材を育成することを目的とする
対象	AFS 選考試験を一般選考 A または B 日程で受験し (P65)、AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定している、広島県在住かつ県下の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校在学者
募集人数	1 名
支給内容	AFS プログラム参加費の一部として 50 万円を支給。50 万円を超える参加費およびそれ以外の経費 (選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など) はすべて個人負担 *派遣強化国 (P62) の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律 20 万円のプログラム参加費支援を行う
応募資格	次のすべての条件を満たしていること ① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること ② 学業、人物ともに優秀であること ③ 国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること ④ 健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適応できること
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき AFS 日本協会が受給者を決定する
選考結果通知時期	2013 年 9 月予定 (AFS 日本協会より本人宛に通知)
その他	●奨学生の義務 ① 留学中・帰国後の計 2 回、留学体験レポートを AFS 日本協会に提出する ② 留学体験レポートの提出などを通じて広報活動に参画する ●他奨学金との併願可、併給不可
支給法人・団体	公益財団法人 AFS 日本協会
問い合わせ先	公益財団法人 AFS 日本協会 TEL : 03-6206-1919

オデッセイ IT 奨学金 (The Odyssey IT Scholarship)

趣旨	株式会社 オデッセイ コミュニケーションズは、コンピュータやインターネットを使いこなすための知識とスキルを測る IT 資格の試験の実施・運営を事業としている。本奨学金は、株式会社 オデッセイ コミュニケーションズの社会貢献活動の一環として、AFS 年間派遣プログラムを通じて海外の高校に日本の高校生を派遣することにより、青少年の国際相互理解と国際友好を促進し、IT スキルと国際コミュニケーション能力を併せ持つ人材の育成と、社会のリーダーの育成を図ることを目的とする
対象	AFS 選考試験を一般選考 A または B 日程で受験し (P65)、AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定している、日本全国の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校在学者 *定員に達しない場合は、一般選考 C 日程で受験した内定生も対象とする
募集人数	4 名
支給内容	AFS プログラム参加費の一部として 50 万円を支給。50 万円を超える参加費およびそれ以外の経費 (選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など) はすべて個人負担 *派遣強化国 (P62) の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律 20 万円のプログラム参加費支援を行う

応募資格	<p>次のすべての条件を満たしていること</p> <p>① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること</p> <p>② (株) オデッセイ コミュニケーションズが実施する IT 資格のうち、マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS)、IC³ (アイシースリー)、VBA エキスパートのいずれかの資格を取得、または、IT 分野における国家資格 (注 1: その他の欄に記載) の取得のいずれかによって IT スキルを証明できる書類を提出できること</p> <p>③ 学業、人物ともに優秀であり、奨学金申請時に過去 3 年間の成績証明書または通知表のコピーを提出できること</p> <p>④ 経済的必要度が高く、保護者の給与等の年間収入金額の合計額が 700 万円以下であること</p> <p>⑤ 国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること</p> <p>⑥ 健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適應できること</p>
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき (株) オデッセイ コミュニケーションズが受給者を決定する
選考結果通知時期	2013 年 9 月予定 (AFS 日本協会より本人宛に通知)
その他	<p>●奨学生の義務</p> <p>① 出発前および帰国後に (株) オデッセイ コミュニケーションズを表敬訪問する</p> <p>② 留学中・帰国後の計 2 回、留学体験レポートを AFS 日本協会に提出する</p> <p>③ 留学体験レポートの提出などを通じて広報活動に参画する</p> <p>●「IT 分野における国家資格」(注 1) とは、下記の国家試験に合格していることを指す</p> <p>IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、IT ストラテジスト試験、システムアーキテクト試験、プロジェクトマネージャ試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、情報セキュリティスペシャリスト試験、IT サービスマネージャ試験、システム監査技術者試験</p> <p>各試験制度に関する詳細情報は、独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 公式サイトに掲載内容を確認のこと [出典: 独立行政法人 情報処理推進機構 公式サイト より抜粋]</p> <p>●他奨学金との併願可、併給不可</p>
支給法人・団体	(株) オデッセイ コミュニケーションズ
問い合わせ先	<p>●奨学金に関する問い合わせ先</p> <p>公益財団法人 AFS 日本協会 TEL: 03-6206-1919</p> <p>●(株) オデッセイ コミュニケーションズが実施する「IT 資格」に関する問い合わせ先</p> <p>株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ カスタマーサービス</p> <p>TEL: 03-5293-1881 (受付時間: 平日 10 時~18 時) Email: mail@odyssey-com.co.jp</p>

AFS ボランティア奨学金 (AFS Volunteer Scholarship)

趣旨	経済的必要度の高い AFS 留学生を助成することを目的とする
対象	AFS 選考試験を一般選考 A または B 日程で受験し (P65)、AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定している、日本全国の高等学校・高等専門学校・専修学校高等課程および中学校在学者
募集人数	6 名
支給内容	<p>AFS プログラム参加費の一部として 50 万円を支給。50 万円を超える参加費およびそれ以外の経費 (選考手数料、パスポート・ビザ取得費、国内交通費など) はすべて個人負担</p> <p>* 派遣強化国 (P62) の内定生には、本奨学金とは別に、AFS 日本協会より一律 20 万円のプログラム参加費支援を行う</p>
応募資格	<p>次のすべての条件を満たしていること</p> <p>① AFS 年間派遣プログラム第 61 期の受入国が内定していること</p> <p>② 成績優秀かつ経済的必要度が高いこと</p> <p>③ 国際相互理解、異文化体験に興味と意欲があること</p> <p>④ 健康で、留学先でのホームステイおよび学校での学習に適應できること</p> <p>⑤ 保護者の給与等の年間収入金額の合計額が 1,000 万円以下であること</p>
選考方法	AFS 選考試験の結果と奨学金申請書類に基づき AFS 日本協会が受給者を決定する
選考結果通知時期	2013 年 9 月予定 (AFS 日本協会より本人宛に通知)
その他	<p>●奨学生の義務</p> <p>① 留学中・帰国後の計 2 回、留学体験レポートを AFS 日本協会に提出する</p> <p>② 留学体験レポートの提出などを通じて広報活動に参画する</p> <p>●他奨学金との併願可、併給不可</p>
支給法人・団体	公益財団法人 AFS 日本協会
問い合わせ先	公益財団法人 AFS 日本協会 TEL: 03-6206-1919

各奨学金とも、留学先の決定や渡航手続等に関しては、AFS 年間派遣プログラムの参加規程に準じます。

下記の奨学金の応募については、各奨学金支給法人・団体に直接お問合せください。締切日は各奨学金によって異なります。

支給法人・団体	支給額	対象者	人数	問い合わせ先
(公財) 長岡市米百俵財団	130万円支給	申込時に新潟県下の中学校3学年もしくは高校・高専1・2学年に在学する者(長岡市内に引き続き1年以上居住する世帯の子弟)	3名予定	公益財団法人 長岡市米百俵財団 〒940-8501 長岡市大手通1-4-10 シティホールプラザアオーレ長岡 長岡市総務部庶務課内 TEL: 0258-39-2203
小松市	一部支給	小松市在住の高校・高専生	若干名	小松市役所空港・地域交流課 〒923-8650 小松市小馬出町91 TEL: 0761-24-8039
広島県	30万円支給	広島県立学校に在学する者		広島県教育委員会 高校教育指導課 高校生海外留学担当(高校教育指導係) TEL: 082-513-4994
(財) 福岡市教育振興会*	上限50万円迄支給	保護者が福岡市在住で、当会が指定する県下の高校・高専生	10名程度	財団法人 福岡市教育振興会 TEL: 092-721-1709
佐賀県	100万円を上限に貸与	佐賀県が行う海外留学奨学金の対象となる者		佐賀県教育庁教育支援課総務担当 TEL: 0952-25-7148
佐賀県	50万円または90万円支給	佐賀県が行う海外留学助成金の対象となる者		佐賀県教育庁教育政策課 TEL: 0952-25-7411
イトーヨーカドー スカラシップ	130万円支給	セブン&アイ HLDGS. 各社の正社員、パートナー社員(1年以上勤務)の子弟	10名	財団法人 伊藤謝恩育英財団内 米国伊藤財団 TEL: 03-3512-5800 E-mail: iy-scholarship@ito-foundation.or.jp
小川奨学財団奨学金	130万円支給	大宮化成株式会社及び関係先会社の役員及び社員の子弟で、中学3年～高校2年に在学する男女	若干名	小川奨学財団 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-8 TEL: 03-3662-3275
ソニーグループ 国際教育基金	130万円支給	ソニーグループ企業社員の子弟で、海外年間派遣内定者	若干名	公益財団法人 ソニー教育財団内 ソニーグループ国際教育基金事務局 〒140-0001 東京都品川区北品川4-2-1 御殿山アネックス2号館 TEL: 03-3442-1005

*前年度実績

- ・ 情報に追加、変更がある場合は、AFS 日本協会 WEB サイトにてお知らせします。
- ・ AFS 日本協会の維持会費は、奨学金の受給者にもお支払いいただきます (P64)。